

建築教育ニュース

1979, 12

東日本建築教育研究会

目 次

1. 会長あいさつ	1	
2. 昭和53年度, 事業報告および会計(決算) 事務局	2	
3. 昭和54年度, 事業計画および会計(予算) 事務局	3	
4. 群馬県内5校建築展について	茂木嘉夫	6
5. 計画分科会報告	佐藤賢吉	8
6. 施工分科会報告	山室 滋	10
7. 構造分科会報告	井上 満	13
8. ニュース		16

東日本建築教育研究会理事長

東京都立葛西工業高等学校長 堀 重 雄

1. あいさつ

いよいよ、昭和57年の新教育課程の移行を目前に、会員各位の皆様、日々の研鑽と教育指導に専念されていること慶賀に存じます。

私も、ご縁があって、建築関係の方々と親しくしていただき、いつとはなく本会に強い愛着を覚え、加えて、役員、事務局の諸先生に支えられ、円滑に会務が進んでいることをご報告する次第であります。

思えば、6月8日(金)、9日(土)、栃木県立真岡工業高校の西方校長先生を実行委員長とし、県内、建築科関係の皆さんの絶大なご努力により、鬼怒川において、昭和54年度の総会と研究協議会が盛会のうちに催されました。ここに厚くお礼申し上げます。

初日は、改訂高等学校指導要領にともなう、工業基礎、工業数理の指導法につき、全体会をもち、今後、多様な社会的要素にこたえるための目玉教科目に論議が集中しました。

また、製図・計画、構造、施工の3分科会では、日頃の情報交換をはじめ、ユニークな指導法の紹介や討論が行なわれ、参加者各位それぞれ得るところ大であったと信じます。

翌、9日は時も所もよし、わが国の代表的文化財としての東照宮と輪王寺について、県重要文化財審議会委員の中里茂先生から、専門的なご指導を受け、感銘を深くしました。

このほか、8月20日(日)、21日(火)には、横須賀市立工業高校の相磯校長先生をはじめ、建築科の皆様のお世話により、夏期講習会が盛大に開催されました。

特に、施工分科会主査山室先生には事前の計画、当日の役割などまことにご苦勞様でした。おかげで、東日本一帯から参集できました。内容も「建築施工と安全教育」という今日的なものであり、講師陣に労働基準局、ならびに労災防止指導員をお招きできました。

建築施工の作業内容のそれぞれに安全基準となる法令をわかりやすく解説され、きわめて実務的な講習でありました。結果として、参加者全員が安全主任者としての資格を得られた由。好評を博したことを喜びます。なお、今回の足場の組立にとどまらず、作業を内容をさらに広めたらとの要望もある次第であります。

さて、明年は本会創設以来、30周年を迎えることになります。本会が壮年期を迎え、名実ともに実った事実を、20周年に続く史誌としてとどめたいとの声があります。このため、役員各位が、それぞれ奔走しており、これを意義あらしめる明年の北海道大会を成功させるべく格段のご援助をお願いし、全会員一体となって事に当たりたいと存じます。

平素、忙殺される校務の中、特に昨今の生徒指導を重要視されていますが、これと同時に教科指導がゆるがせにされることは許されません。

これら、両輪、相俟ってこそ建築教育の実をあげられることを信じ、各位におかれても、いっそうのご健闘あることをお祈りする次第であります。

2. 昭和53年度 事業報告

1 総会・研究協議会

日時：昭和53年6月2日(金)・3日(土) 参加者 153名

会場：青森ニューグランドホテル(青森県青森市新町1-1-16)

(1) 総会議事

ア) 昭和52年度事業報告及び会計報告

イ) 監査報告

ウ) 役員改選

エ) 昭和53年度事業計画案及び予算案審議

オ) その他

(2) 研究協議会(全体会)

議題 「学習指導要領の改訂について」

「工業基礎の学習について：神奈川県立藤沢工業高等学校」

「建築科・科目の統合について：東京工業大学工学部附属工業高等学校」

(3) 研究協議会(分科会)

議題

製図分科会 「建築設計製図の学習指導について」

構造分科会 「建築構造設計の学習指導について」

計画分科会 「建築計画の学習指導について」

施工分科会 「建築施工の学習指導について」

指導助言 文部省教科調査官 関口 修先生

2 講習会

日時：昭和53年8月18日(金)～19日(土) 参加者62名

場所：東京工業大学工学部

内容：「建築教材作成」

3 常任理事会・委員会

常任理事会：年7回開催

委員会：製図・構造・計画・施工の各分科会とも、教材、教科指導法などに
つき年5回～7回開催

4 特別委員会

5 工業標準テスト委員, 会長 東工大附工・越生工・田無工・蔵前工

6 刊行物 建築教育ニュース 1978.12発行

昭和53年度 会計決算報告

1. 歳入額 675,106円

項	目	予算額	決算額	差引残額	摘要
会費	1. 会費	345,000	315,000	△30,000	3,000×105校
雑費	2. 雑収入	12,000	11,430	△570	助成金 利子
	3. 印税	95,000	107,186	12,186	ワークブック 基礎問題印税
	4. 賛助会補助	50,000	50,000	0	
繰越金	5. 繰越金	191,490	191,490	0	昭和52年度繰越金
計		693,490	675,106	△18,384	

2. 歳出額 670,875円

項	目	予算額	決算額	差引残額	摘要
事業費	1. 総会費	258,000	272,695	△14,695	会場校補助, 講師謝礼等
	2. 資料費	110,000	111,000	△1,000	資料印刷(総会, 建築教育 ニュース等)
	3. 講習会, 研究会補助費	40,000	40,000	0	透視図実技講習会
	4. 視察出張補助費	20,000	20,000	0	近畿工高建築連盟参加補助
	5. 分科会費	80,000	80,000	0	20,000×4分科会
運営費	6. 役員会費	14,000	18,950	△4,950	会場費
	7. 交通通信費	117,000	113,060	3,940	交通費
	8. 雑費	10,000	5,170	4,830	事務用品, 用紙
	9. 事務手当	10,000	10,000	0	事務手当
予備費	10. 予備費	34,490	0	34,490	
計		693,490	670,875	22,615	

3. 差引残額 4,231円

4. 次年度繰越金 4,231円

上記のとおり報告いたします。

昭和54年3月31日

会 計 松 本 延 夫

監査の結果収支記帳等相違ないことを認めます。

昭和54年3月31日

会計監査 堀 越 喜与志
加 藤 尚

昭和54年度 事業計画

1. 総会・研究協議会

- 日時：昭和54年6月8日(金)・9日(土)
 会場：鬼怒川温泉 ホテルニュー-さくら
 主議題：改訂高等学校指導要領にともなう 工業基礎，工業数理，新教科目の指導法
 研究協議会(分科会) …… 14:35～16:40

議題

製図・計画分科会 建築製図・建築計画の学習指導について

構造分科会 建築構造・建築設計の学習指導について

施工分科会 建築施工の学習指導について

- 指導助言 文部省教科調査官 関口 修 先生

2. 講習会

日時：昭和54年8月21日(火)～22日(水)

場所：神奈川県横須賀市立工業高等学校

内容：建築施工 安全教育について

3. 常任理事会・委員会

常任理事会：年6回～8回開催予定

常任委員会：各分科会(製図・構造・計画・施工)とも必要に応じて開催予定(教科・教材・指導法などの研究)

分科委員会(○印：主査)

製図部会	○五十嵐(東工大附)	赤地(墨田工)	土田(田無工)
	片伯部(神奈川工)	大仁田(市川工)	徳永(鶴見工)
	加藤(川崎市立工)	岡田(川越工)	
構造部会	○井上(墨田工)	古賀(東工大附)	堀越(小石川工)
	古谷(田無工)	松村(葛西工)	遠山(安田学園)
	藤井(神奈川工)	福馬(大宮工)	佐久間(市川工)
計画部会	○佐藤(小石川工)	高山(蔵前工)	山泉(神奈川工)
	中村(小石川工)	和田(葛西工)	
	本田(川越工)	大庭(小田原城北)	志村(蔵前工)
施工部会	○山室(神奈川工)	奥田(田無工)	高橋(葛西工)
	小野(東京工)	飯田(向の丘工)	佐藤(横須賀市立工)
	田島(大宮工)	大沢(熊谷工)	土屋(甲府工)
	小坂(峡南工)		
教材委員会	○五十嵐(東工大附)	会長 副会長 森安(田無工)	
	井上(墨田工)	堀越(小石川工)	佐藤(小石川工)
	高山(蔵前工)	松本(葛西工)	宮島(安田学園)
	白石(市川工)	山室(神奈川工)	加藤(川崎市立工)
	岡田(川越工)		
常任理事	会長 副会長 森安(田無工)	井上(墨田工)	
	高山(蔵前工)	佐藤(小石川)	松本(葛西工)
	五十嵐(東工大附)	古賀(東工大附)	宮島(安田学園)
	小野(東京工)	白石(市川工)	関田(熊谷工)
	山室(神奈川工)	徳永(鶴見工)	
会計監査	堀越(小石川工)	加藤(川崎市立工)	

4. 特別委員会 研究会創立30周年記念

5. 工業標準テスト委員会 会長 東工大附工，越生工，田無工，蔵前工

6. 刊行物 建築教育ニュース1979・10発行予定

昭和54年度 会計予算

1. 収入の部

項	目	予算額	摘 要
会 費	1. 会 費	5 2 5.0 0 0	5,000×105校（51年124校, 52年116校, 53年105校）
	2. 雑 収 入	1 1.4 3 0	助成金, 利子等
雑 費	3. 印 税	1 0 4.0 0 0	ワークブック印税
	4. 賛助会補助	1 2 0.0 0 0	
繰越金	5. 繰 越 金	4.2 3 1	昭和53年度繰越金
計		7 6 4.6 6 1	

2. 支出の部

項	目	予算額	摘 要
事業費	1. 総 会 費	2 0 1.5 2 0	会場校補助, 本部経費, 講師謝礼等
	2. 資 料 費	1 2 0.0 0 0	資料印刷（総会 建築教育ニュース等）
	3. 講習会補助	4 0.0 0 0	講習会
	4. 視察出張補助費	3 0.0 0 0	近畿工高建築連盟参加補助
	5. 分 科 会 費	1 2 0.0 0 0	30,000×4分科会
運営費	6. 役 員 会 費	2 0.0 0 0	会場費（6～8回）
	7. 交通・通信費	1 3 0.0 0 0	交通, 通信費
	8. 雑 費	1 0.0 0 0	事務用品, 用紙代
	9. 事 務 手 当	1 5.0 0 0	
	10. 準 備 費	4 0.0 0 0	研究会創立30周年記念積立金
予備費	11. 予 備 費	3 8.1 4 1	予算外, 予算超過経費充当
計		7 6 4.6 6 1	

4. 群馬県内 5 校建築展について

群馬県には県立工高 6 校、市立工高 1 校、及び工業科併設の県立普通校 4 校がある。これらの研究団体として群馬県工業教育研究会があり、機械部会、電気部会、工業化学部会、繊維部会、建設部会に分れてそれぞれ研究活動を行っている。その内容は各部会持廻りの県外国体見学、夏休中の実技研修が隔年、全部会に亘るものとして講演会、実習教員研修会、工業科科長研修会が毎年開かれ、新教育課程の移行については、教科調査委員会で討議されている。

建設部会は土木科、建築科であり、建築科は昭和初年創立の前橋工、太平洋戦中商業校の転換により増科された高崎工、昭和 35～40 年代の技術革新・高度成長時代の工高増設期に増科された桐生工、続いて藤岡工、分校独立期の長野原高と計 5 校（全日制 5 校、定時制 2 校、各校 1 学級宛）を数えるに至り、学区は全县 1 区、県内の職員は 34 名である。

建築科には構造、計画、施工、実習、製図の分科会があり、会員何れかの分科会に属して、各科目の教材研究、産振設備の研究、授業研究などの研修を続けているが、特に製図分科会で担当し、過去 15 年間続けてきたのが県内 5 校建築展である。

最初の昭和 39 年度は前橋工、高崎工、桐生工の 3 校で出発し、その後 4 校となり現在は 5 校となっている。初めは唯日常の設計製図の成果を卒業設計も含めて校外に展示し、関係者の批判を迎ぐと共に、一般に対する PR を目的としたものであった。従って地域の設計事務所連合会と連携して住宅機器、建材の展示や、住宅相談なども合せ行ったこと、画廊やデパートなどなるべく一般の眼にふれる所を選んだわけである。これが工高の建築教育に対する注目を集め、それなりの効果をあげたことと思う。

その後、製図分科会の所管となって、学年始めに数回会合して各学年別の課題を設定し、設計条件、要求図面を検討して、各校とも年間指導計画の中で指導して行く方法に発展した。会期は概ね秋に固定したので、各学年とも各科目の進度に合わせて、別表の如く 1 年は製図を主として、木造住宅の平面と外観パース、2 年は専用住宅又は店舗付住宅、3 年は各種建築物の身近かなものの設計となっている。展示は共通の専用パネルを作成して各校 20 校、定時制は別に 6 校となるので、各学年 8～10 名の作品が展示できる。級 40 名の中から選ぶので仲々厳しいもので、生徒はそれだけでも発奮し、競争心をあおられるわけである。規模も漸次拡大されたことでもあり、市内に適当な展示場もないので、最近各校の文化祭と共催の形で、各校内で交替で開催することになった。

本年は長野原高が始めて幹事となり、県北の中之条町で開かれる予定である。毎年会期中に建築科総会を開いて、全職員が、指導上の問題点や反省事項をあげて検討を加えている。その中で生徒の意見や、とり組み方に対する希望や建設的意見を聞くことも必要なので、今回は各校各学年の生徒の代表を集めて、討論会も計画中である。

効果として考えられる点は、同一テーマに県内の全生徒が対決することから、大きな刺激を呼び、設計技能、特に表現力は年々向上したと思う。ために日大、建築協会、YMCA、トンボ鉛筆など主催の競技設計で県内各校が毎年優秀な成績をあげる原動力ともなっているものと思う。又県内の全生徒が各学年とも同一テーマに取り組むので、各校の特色が作品に反映することから、吾々にとっても指導上の問題点や、関連各科目の指導についても反省される点も多々あるので、建築科の各科目を総合する製図の指導から建築科の全

科目の指導に示唆を得ることが、何よりも最大の収穫である。又最近の生徒の落ちこみとは言はないが多少のバラツキについても指導法の研究が待たれる所である。

別表 群・工・研 建設部会 “五校建築展のあゆみ”								
回	会期	期間	場所	参加校	課題	共催	幹事校	備考
1	39年11月 27~29	3	前橋市 福田屋	前工 高工 桐工	授業時の作品 校舎新築計画	なし	前工	
2	40. 9 9~5	6	高崎市 藤五	同上	住宅設計 2,3年	高崎設計事務所 連合会	高工	
3	41. 11 11~13	3	前橋市 福田屋	前工・藤 高工 桐工	1. 添影物 2. 住宅設計 3. 貸ビルの設計	なし	前工	
4	42. 11 9~14	6	高崎市 藤五	同上	1. 室内展開図 2. 住宅設計 (木造) 3. " (RC)	高崎設計事務所 連合会	高工	
5	43. 11 29~12/1	3	桐生市 織物会館	同上	1. 住宅バス (室内) 2. 2階建住宅 3. 喫茶店設計	桐生設計事務所 連合会	桐工	
6	44. 11 18~20	3	高崎市 藤五	前工・藤 高工 長野原	1. 住宅平面とバス 2. 2階建住宅 3. 郷土資料館	高崎設計事務所 連合会	高工	
7	45. 10 31~11/3	4	前橋市 前工短大	同上	1. 授業時の作品 2. 幼稚園 3. 幼稚園	前工短大	前工	
8	46. 10 7~11	5	高崎市 藤五	同上	1. 住宅平面 (バス外) 2. 住宅設計 3. 公民館	高崎設計事務所 連合会	高工	
9	47. 11 17~19	3	桐生市 いせや	同上	1. 住宅平面とバス 2. 山間地に建つ週末住宅 3. " 合宿所	桐生設計事務所 連合会	桐工	
10	48. 11. 10~11	2	前橋市 前工	同上	1. 住宅平面とバス 2. 2階建専用住宅 3. スポーツクラブハウス	前工工業祭	前工	
11	49. 11 19~21	3	藤岡市 商工会議所	同上	1. 住宅平面とバス 2. 2階建専用住宅 3. 市立図書館	藤岡設計事務所 連合会	藤工	
12	50. 11 11~16	6	高崎市 藤五	同上	1. 住宅平面とバス 2. 2階建専用住宅 3. 郷土美術館	なし	高工	
13	51. 11 13~14	2	桐生市 桐工	同上	1. 住宅平面とバス 2. 2階建専用住宅 3. 宿泊施設をもつ同窓会館	桐工工業祭	桐工	
14	52. 11 5~6	2	前橋市 前工	同上	1. 住宅平面とバス 2. 2階建専用住宅 3. 小学校区に建つ幼稚園	前工工業祭	前工	
15	53. 11 11~12	2	藤岡市 藤工	同上	1. 住宅平面とバス 2. 2階建専用住宅 3. 老人福祉センター	藤工工業祭	藤工	
16	54. 11 10~11	2	中之条町 商工会館 ホール	同上	1. 住宅平面とバス 2. 2階建・店舗・併用住宅 3. 宿泊施設のある青年の家	なし	長野原 高	

5. 計画分科会報告

都立小石川工高 佐藤賢吉

建築教育ニュース1978・12以降の主な活動状況および改訂された高等学校学習指導要領について、先般6月に開催された高校教育課程講習会（職業教育関係）に参加の機会を得ましたので、その時のメモを一部報告いたします。

① 計画分科会

製図・計画合同分科会（委員会）を開催、主に指導要領の改訂に伴う計画、製図の指導について協議する。また総会における分科会でも合同部会をもった。計画部会は4回の委員を開き今後の活動計画および、これからの建築計画の内容と指導について検討しています。

② 改訂高等学校学習指導要領について

◎ 全体会

〈高等学校教育課程の基準の改訂趣旨〉

① 改訂の経緯、改訂の基本方針等に関する説明

② 高等学校への進学率93.5%（全国平均）という実情にたって、能力、適性、進路等多様な生徒の学力等の伸長を図りながら、知、徳、体の調和のとれた人間性豊かな生徒を育てる。……

※ 学習指導要領は、内容を基本的、大綱的なものに抑え、学校における創意工夫をできるだけ尊重することを基調として、教育課程の編成をすすめる。

※ 多様化した生徒の教育に対応できるように必修教科、科目、単位を減らし、選択科目を多くとり入れるようにする。（◎基礎学習に徹する。◎カリキュラムの弾力化）

◎ 工業部会

〈改訂の趣旨、要点についての概要〉

① 基本的な考え方

高等学校学習指導要領解説・工業編1章参照

工業に関する各教科、科目については、(1)実験、実習に一層の重点をおく。(2)基礎的、基本的知識と技術の修得。(3)学校の実態に即した特色ある弾力的なカリキュラムの編成、

② すべての生徒に履修させる教科、科目（必修科目）

(1) 保健、体育、芸術については現行と同じ。

(2) 国語Ⅰ、現代社会、数学Ⅰ、理科Ⅰはいずれも4単位となって必修科目が縮小された。

(3) 普通教科、科目の最低必履修単位数の削減、27単位になる。（現行42単位）

(4) 専門教科、科目の最低必履修単位数の削減、30単位になる。（現行35単位）

③ 単位の修得と卒業の認定

(1) 卒業に必要な単位数が80単位以上になった。（現行85単位）

(2) 特に必要がある場合は単位修得の認定を学期の区分ごとに行うことができる。

- ④ 年間授業週数，週当たり授業時数，1単位当たり授業時数。
- (1) 年間授業週数・35週を標準とする。
 - (2) 週当たり授業時数・32時間を標準とする。
 - (3) 1単位時間・50分を標準とする。
- ⑤ 生徒の能力，適性，興味および習熟度に応ずる配慮。
- (1) 生徒の実態に即したカリキュラムを編成する。
 - (2) 普通科目の履修をもって専門科目の履修の一部に替えることができる。
 - (3) 学習・習熟度別学級編成の工夫。（生徒の実態を考慮し，学校の主体的判断により配慮すべき問題で強制的なものではない。）
- ⑥ 専門教育を主とする学科について
- (1) 基礎的，基本的事項を重視するため，次の点が改訂された。
 - (a) 科目の整理，統合。（工業科目数64，現行164）
 - (b) 基礎科目の明確化。
工業基礎，工業数理などが新設され，これらは低学年で共通に履修させる。
 - (2) 実験，実習を一層重視し，これらに相当する授業時数を十分確保すること。（実験実習にあてる授業時数は原則として履修する専門科目全体の10分の5以上とする）
 - (3) 専門教科，科目の弾力的編成をすすめるため
 - (a) 専門教科，科目の最低必履修単位数の削減
 - (b) 専門科目と必履修科目との代替措置の拡充（例：工業数理で数学Ⅰに替えるなど）
 - (c) 専門科目の標準単位数は，設置者（都・道・府・県）が定める。
- ⑦ 建築学科の科目，内容
- 工業基礎，（建築）実習，（建築）製図，工業数理は各学科共通に履修させる科目にあげられ，建築構造，建築施工，建築設計，建築計画は建築科に関する主な科目となっている。なお，ここでは誌面の都合上，建築計画の内容の概略を参考までに記す。「建築計画」は，計画の概要，形態と色彩（造形），計画の方法および建物内外の環境調整，設備の計画に関する各分野の基礎的，基本的事項を理解させる。…特に指導に当たっては具体的な事例で総合的に理解させることが望ましい。この科目は，従来の建築計画と建築史，建築造形，建築法規等と融合して指導する。……となっている。

おわりに計画分科会では，今後，これまでの学習指導に関する研究を一層深め，新しい学習指導要領における「建築計画」の指導法について研究活動をすすめたいと思いますので，ご希望，実践報告などは是非お寄せ下さるようお願いいたします。

6. 施工分科会報告

県立神奈川工業高校 山 室 滋

第3回「建築施工夏期講習会」を終えて

はじめに

今回の夏期講習会は前2回のように「施工の実習書」を抛りどころにして「汗を流し、手をよごして体得する会員相互の実技的な研究協議会の形は一と先づ置いて、建築施工の現状を理解し、知識を身につける方向で検討しました。

そのため、現場経験豊かな指導者から建築生産の現実のあり方を聞き、これらを吸収して学校教育の中に融合して行けるような勉強会を開こうということから始まったものです。

そこで、建築工事の初期から竣工検査までの施工技術のすべてを取り上げた内容とする事は望むところであるが、時間的にも不可能であるなどから指導者を得て、良き資料を手元において実施できることを前提にして決めることで準備しました。

1. 準 備

① 講習会の内容 初期の重要な作業であるなわ張り、BMやなわ張りおよび墨出しなどは前2回の研究協議会の中で習得しているので、次の作業工程を関係づけ、「安全教育」を組み込んだ形で選定した結果「足場」を取り上げることにいたしました。

建築の生産活動を推し進める現場員や、学校に勤務する職員が実技指導する場合には労働安全衛生法、同規則を理解し、知識を身につける作業を実施できるように努力しなければならないと考えたからです。例へば、

- 1) 生徒に実習を指導する場合、実習内容によって所定の作業主任者の資格が必要である。
- 2) 施設・設備に対するいろいろな安全施策が必要である。
- 3) 備品についても内容によって設置届を提出しなければならない。
- 4) 自主点検が義務づけられている。

② 渉外活動 講習会を催すについて、どこから指導者を依頼するか、会場はどこにするか、という順序で渉外活動に入りました。幸い委員校の横須賀市立工高で労働基準局労働安全衛生指導員から御指導を頂けるという力強い回答を得て横須賀労働基準監督署をはじめ関係機関に開催の主旨の説明とお願いをして、具体的な準備に入りました。

宿舎は収容人員、講習会場・宿泊施設などを考慮して住友重機(株)の浦賀クラブにお願いをして予定人員のわくを頂きました。

③ 受付から〆切まで 総会で夏期講習会の日程・内容を配布してから、正式の参加申込みを受理するため、これに各学校長および建築科宛の文書を添付して改めて各校へ送付しました。

〆切日は連絡・交信上の都合から7月10日の休み前にしましたが、早い学校では総会に配った書類で申込むという次第で、以後切れ間なく参加申込が到着しました。

中には、切間近かのため、夜分に私宅まで伺いの電話が入る熱心な参加者も居られた程です。

受けおおよび諸事万端の作業は横須賀工高が担当し、前回の講習会のキャリアを生かして手際よく、しかも万全に処理して頂きました。

かくして、申込者数58名となり開催の手続きに入りました。

- ④ 資料作成 今回の講習会には、労働省労働基準局安全課監修の「足場組立解体工事の作業指針」一作業主任者講習テキスト一が用いられるので、分科会では日程・内容で講習会の概要を示し、これに講習に関する足場・通路・作業床などをJASSと労働安全衛生規則とを掲げ、対比できるように作成(11頁)して参考に供しました。

準備の資料の印刷・とじ込みの軽作業で終り、前回の実習実技のための現場セット作りや、諸材料の調達などのない作業で完了しました。

2. 講習会

会場の建物は住友重機にドック入りした乗務員のために、来客および研究会などのための宿泊施設として造られたものです。講習会の会場もこの中の会議室を借用しました。

準備は前日から宿泊する委員を混えて行ない、机の他室からの移動や、氏名を明示した立札を県別ブロックで机上に貼りつけるなどして会場をつくり、受付、控室などの態勢を整えました。

参加者は、定刻前から逐次受付で講習会用テキスト、資料の他、労働安全衛生規則一労働省安全衛生部監修一などの入った袋を受領し指定席で開始を待つという熱心さでした。

本会長も遠方にかかわらず早くから参加され、横須賀労働基準監督署長や講師の方々などと建設業の現状や、災害の実態などをお聞きになり、講習会の意義を深く理解して開会に移りました。

開会は予定通りに進め、第一部の開会に続いて直ちに第2部の講習会に移りました。計画では講習会に入る前に記念写真を撮る予定でしたが、講習会の時間を有効にしたいということで昼休みの時間帯につなげることになりました。これが予定外の第1番目になりました。

この様なわけで、今回の講習会の中味は労働基準監督署の規定に沿って時間を有効にして行うということで、第1日・第2日を通して進めるようにして頂きました。

講義は講師の分担で、要点を集約して、わかり易く、参加者の笑いを混えて快よく進めて頂きました。途中16%映画や、スライドを混えて内容を把握しやすく、現場の状況を理解するように構成して頂くなどの配慮は有難く感謝して居ります。

とくに、構義の進め方、説明の方法(話術)は文章から理解して言葉にするというのではなく施工技術のすべてを集約して体の心髄から言葉になって語る説明には感歎するばかりです。

これも我々教師が教えられた大きな勉強ではなかったでしょうか。

2日目には一通りの講義の終了ののち、最後に「足場の組立て等作業主任者」となる学科試験を行うことになりました。これが予期しなかった第2番目のことであります。

お蔭で良き指導者の講義と参加者の熱心さによって試験は見事全員が合格しました。

今ごろは、技能講習会修了証を手にして夏の日思い出に耽って居られるのではないのでしょうか。

良き指導者のもとで、知識と共に作業主任者の資格を得ることの出来た今回の機会は大きな幸せであり意義深いものであったと考へます。

3. 研究懇談会・閉会

講習会の部を無事終了して、講師・協会事務長を参加者の大いなる拍手で感謝をこめてお送りしてから、研究懇談会に移りました。

閉会には会場校教頭多田貢氏、本会の副会長森安四郎氏が参会してなごやかなうちに終了することができました。この間に夏期講習会の会計決算の報告と本部事務局の松本延夫氏からの監査報告があつて承認されました。

また、「夏期講習会に参加して」の調査を収集しました。それぞれの項目に有意義な回答を頂き今後の施工分科会の資料にさせていただきます。

お礼 本会の開催・運営にいろいろと御援助・御協力を賜りました、市教育委員会、横須賀市立工業高校々長、教頭、建築科職員並びに事務職員の方々、会場を捐供して頂いた住友重機（株）浦賀クラブの方々には心からお礼申し上げ、本会の成功の源となったことに深く感謝します。

また、本会の行事に、（株）測器舎殿、武藤工業（株）殿が出席参加され資料の提供のほか御援助を賜り経済的ゆとりで閉会出来ましたことを有難くお礼申し上げます。

会の運営にいろいろと御骨折り下さった施工分科会の下記の委員の方々にお礼申し上げて報告を終ります。

佐藤克己（横須賀工高）	大沢二郎（熊谷工高）
三浦陽助（＃）	田島昇（大宮工高）
高橋秀資（＃）	高橋一（葛西工高）
飯田三郎（向の丘工高）	奥田幸司（田無工高）
山崎敏弘（＃）	土屋健（甲府工高）
小野幹郎（東京工高）	小坂洋（峡南工高）
内藤美雪丸（＃）	村上竹久（藤沢工高）

7. 構造分科会報告

都立墨田工高 井上 満

昭和54年度の総会え向けて、小委員会を2～3回開き、総会での討議題を「建築構造、建築設計の学習指導について」とすることに決め、前年度のアンケート調査結果報告を小石川工高の堀越先生にまとめて整理発表して載きました。すなわち、回答校数（全定併せて）48校、履習学年と単位数は6単位が多かった。また学習指導と教科書の内容の難易さについて図表化してまた各章ごとについての意見をまとめたのを発表していただきました。

次に教科書の改訂について、今回は部分改訂で1/4程度の改訂であることを報告してもらいました。また、総会席上では、東京都建築教育研究会構造部会で発表願った田無工高の視聴覚機器についてどの程度のを備え、活用しているかを、墨田工高井上が、田無工高に代って説明し、今後、視聴覚機器を設備するに当たっての参考として欲しいと述べました。（OHP、スライド、VTR、16mm映写機の配置、実施状況について）その他は、総会席上で、フリートーキングを行い、各学校の状況について発表してもらいました。例えば、小石川工から生徒の質について、鶴岡工から工学機器の良否について、また市川工から工業基礎の状況について、山形工からは生徒の質は低下していないので、レベルダウンはしていない。壘学中心で、設計には10単位あてており、先生の教科もローテーションしてマンネリをさけている。また、近畿代表の津山工から施設・設備、教員を一度に解決することはむずかしい。実施状況について説明があり、各校の状況を知らせて欲しいとの発言があり、高田工の状況、愛知工の進学率2割ぐらい。教育工学機器利用状況について、土浦工、前出の津山工から工業基礎について各県の様子を知らせて欲しいと発表があり、甲府工（研究指定校）、藤沢工、前橋工から状況説明があった。

また、鋼材倶楽部から日本の鋼構造の冊子を寄贈願ひ、各国の人工地盤の開発状況についてふれ、映画は鋼材倶楽部の方にあるので利用願ひ度い。また、見学会は2回目を実施し、盛況でした。

とりとめない報告の仕方ですが、希望などございましたら墨田工（井上宛）に御知らせ下さい。

以下に、古谷先生（田無工）の「建築構造における視聴覚教材等の活用について」のお話のあらましを記します。

1 視聴覚教材等の導入の必要性

指導内容を説明するのに抽象的表現でなく、より具体的な指導が必要ではないだろうか。とくに建築構造のように建物の構成を教える科目では、視聴覚教材の活用が重要である。

2 田無工（建築科）の視聴覚機器

従来、視聴覚機器としては、スライドであった。16mm映写機が他科のものを利用

したり、フィルムそのものが必要量ないとの関係もあり、教科指導への導入がむずかかった。次のような視聴覚機器を設置し、視聴覚教育の充実をはかることにした。

① オーバーヘッドプロジェクター（OHP）—1台（2台用意するほうがよい）

OHP
付属品 {

- スライドアダプター — 1台 …… 室を暗くしないでスライド使用可能、ただ、画面を大きくすると暗くなり、見えにくくなるのが難点。
- ワイドアダプター — 1台 …… 小さいフィルムを拡大して写すことができる。

② ビデオプロジェクター — 1台 …… 60インチ大型画面の放映ができる。テレビ放送・録画放送可能。

VTR ————— 1台 …… テレビ放送の録画。

VTR撮影機 ————— 1式 …… 自作のVTRの製作用、ビデオプロジェクターで放映できる。

③ 16mm映写機 ————— 1台

購入価格（定価）

品 名	数量	金 額	品 名	数量	金 額
OHP（G社）	1	157000円	ビデオプロジェクター	1	1250000円
スクリーン	1	39000	VTR	1	266000
スライドアダプター	1	23000	VTR撮影機（N社）	1	435000
ワイドアダプター	1	8000	16mm映写機 （含むワイドスクリーン）		

3 視聴覚器材の配置 省 略

4 建築構造における活用事例

第1章 建築構造 時数：8時間

時間目 時数	指導内容	視聴覚教材の活用
2 8	1. 建築物の分類 (1) 木構造 1 (6) 補強コンクリートブロック造	OHPにより学校施設のそれぞれの位置確認、 → OHPの利用、 学校施設のVTR（自作）により、木構造、RC造、鋼構造、補強コンクリートブロック造、→ → 自作VTRによるビデオプロジェクターの利用 学校施設以外の建築物（木造住宅、超高層ビルなど）、OHPによるスライドアダプターをセット、 （室は明るいまゝ、）→ 自作のスライドの利用。

毎時間視聴覚教材を取入れて授業運営をすすめるよう心がけている。教材製作には大きな労力が必要であり、教材を私蔵しないで、研究会等で発表し、互に利用しあうことも必要であろう。

毎回、映像を続けて見せるだけで効果が上がると思うのは早計だろう。視聴覚教材を活用しながら少しずつ疑問点もでてきた。会員諸先生方のご意見を願います。

以上

ニュース

1. 昭和55年度 総会、研究協議会は、昭和55年7月末、北海道で開催される予定です。
2. 本会創立30周年を記念して、種々行事が計画され、着々その準備が会員の皆様の努力によって進められています。その1～2を紹介致します。
 - 記念講演会 7月末、北海道において（総会に併せて）
 - 記念誌 5月発行予定、会員校の紹介のページを設けました。殆んどの学校からすでに原稿を頂戴致しました。御協力有難うございました。
 - 会員名簿、住所録 6月末発行予定、3月末頃名簿の原稿依頼が届くことと思いますが、これまた宜しく御協力のほどお願い致します。
3. 各学校で研究、または調査されました資料・レポートなど、あるいは随筆、批評などでも結構ですから、どしどし御寄稿のほどお願い致します。

あとがき

本年もあとわずかになりました。会員の皆様方お元気で、新しい、良い年を迎えられますようお祈り申し上げます。

御寄稿いただきました先生方、御多忙の所どうも有難うございました。

昭和54年12月

編集事務局

都立田無工業高校

都立小石川工業高校